

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v.2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)新上津役プロジェクト	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------	-----	---	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.9 / 5		がんばろう:
2 地球温暖化対策の推進	3.7 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 / 5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	1.0 / 5		がんばろう:

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)								
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 2.9									
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 2.5								
リサイクル材を積極的に活用。		階高を3.4mとし、天井高を2.4m以上確保。									
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 3.7									
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.4	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4								
BPI <sub>m</sub> 、BEI <sub>m</sub> の数値を低く抑え、省エネルギー性に配慮。		節水型便器の採用。									
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 2.0									
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 2								
特になし。		敷地内を積極的に緑化。									
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 1.0									
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	主な指標									
特になし。		<table border="1"> <tr> <td>BPI/BPI<sub>m</sub></td> <td>0.76</td> </tr> <tr> <td>BEI/BEI<sub>m</sub></td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>外構緑化指数</td> <td>19.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数</td> <td>3.5 %</td> </tr> </table>		BPI/BPI <sub>m</sub>	0.76	BEI/BEI <sub>m</sub>	0.85	外構緑化指数	19.7 %	建物緑化指数	3.5 %
BPI/BPI <sub>m</sub>	0.76										
BEI/BEI <sub>m</sub>	0.85										
外構緑化指数	19.7 %										
建物緑化指数	3.5 %										

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新上津役プロジェクト	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡西区上上津役5丁目1204他	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法22条地域	平均居住人員	56人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2018年3月28日
敷地面積	3,541 m <sup>2</sup>	作成者	ブラックステューディオ前畑
建築面積	1,383 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,875 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<p>■ 総合                      植栽計画を積極的にを行い、建物利用や周辺環境に配慮。</p>	<p>敷地に対して、建物のボリュームを小さく抑え、周辺環境に対して圧迫感のないよう配慮。また、敷地内に「ふれあい広場」「地域交流スペース」を計画し、地域の活動やにぎわいに貢献。</p>	
<p>■ Q1 室内環境                      F☆☆☆☆の建材を内部仕上げのほぼ全面的に採用。開口部を積極的に設け、自然採光、自然換気を利用。</p>	<p>■ Q2 サービス性能                      階高を3.4mとし、天井高を2.4m以上確保。</p>	<p>■ Q3 室外環境(敷地内)                      外構緑化、建物緑化を積極的にを行い、建物利用者や周辺環境に配慮。</p>
<p>■ LR1 エネルギー                      建物のBPI<sub>m</sub>、BEI<sub>m</sub>の数値を低く抑え、省エネルギー性に配慮。</p>	<p>■ LR2 資源・マテリアル                      有害物質を含まない材料、またリサイクル材を積極的に採用。</p>	<p>■ LR3 敷地外環境                      日影図を作成し日照障害の抑制に配慮。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
**(仮称)新上津役プロジェクト**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.6</b>	1.00			<b>2.6</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00			<b>2.3</b>
2.1 室温制御		2.2	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38		-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>2.6</b>	1.00			<b>2.1</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	1.8	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60	1.0	0.60			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
<b>4 空気環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.8</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を内部仕上げのほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能			-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視			-		-			
2 喫煙の制御	禁煙	5.0	1.00		-			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性			-	3.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応			-		-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40			
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30					<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震		3.0	0.50		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-			

2.4 信頼性	1 空調・換気設備		2.8	0.20	[Cross-hatched]	-	2.5
	2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3 電気設備		3.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備		2.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.5</b>	<b>0.30</b>	<b>2.3</b>	<b>1.00</b>	
3.1 空間のゆとり			<b>1.6</b>	<b>0.30</b>	<b>1.6</b>	<b>0.50</b>	2.7
1 階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	<b>0.30</b>	<b>3.0</b>	<b>0.50</b>	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ふれあい広場、地域交流スペースを設け、地域活動、にぎわいに貢献	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> 0.76 BEI <sub>m</sub> 0.85	4.0	0.20	[Cross-hatched]	-	4.0
2 自然エネルギー利用		自然換気、自然採光を積極的に利用	4.0	0.10	[Cross-hatched]	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.85 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	[Cross-hatched]	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		省エネルギー性に優れた設備機器の採用	4.0	1.00	[Cross-hatched]	-	
集合住宅の評価(3c)			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	[Cross-hatched]	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
集合住宅の評価			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
4.1 モニタリング			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
4.2 運用管理体制			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 水資源保護			3.4	0.20	[Cross-hatched]	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	[Cross-hatched]	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	[Cross-hatched]	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	[Cross-hatched]	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル、集成材、ビニル系床材	5.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	[Cross-hatched]	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		壁紙の接着材に有害物質を含まないものを採用	4.0	0.30	[Cross-hatched]	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	[Cross-hatched]	-	
1 消火剤			2.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
3 冷媒			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 地球温暖化への配慮		BEI 非住宅 0.85	3.4	0.33	[Cross-hatched]	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	[Cross-hatched]	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	[Cross-hatched]	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	[Cross-hatched]	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	[Cross-hatched]	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	[Cross-hatched]	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	[Cross-hatched]	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	[Cross-hatched]	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1 騒音			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
2 振動			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
3 悪臭			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
2 砂塵の抑制			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	